**令和２年度　道徳学習指導研究委員会**

**一　テーマ**

「特別の教科　道徳」の評価とそのあり方

**二　テーマ設定の理由**

本委員会では昨年度より、「特別の教科　道徳」の評価のあり方について研究してきた。昨年度は、道徳の評価の完全実施に向けた研究が主だったが、今年は小中ともに完全実施を迎えた今、改めて評価について研究を進めていきたいと考え、本テーマを設定した。

**三　研究の経過**

本研究会では、昨年度の研究をさらに深めるためにこれまでの研究テーマを継承し、「特別の教科　道徳」の指導と評価について研究を重ねてきた。今年度はその中でも「評価」に焦点化し、教科として「考える道徳」「議論する道徳」をどのように実践し、どのように評価へとつなげていくのかを研究してきた。

「特別の教科　道徳」の目標や指導のポイントとして、次の点が挙げられる。

**・自分事として捉えること（自己を見つめる・自己の生き方についての考えを深める）**

これまでの自分の経験や、そのときの考え方、感じ方と照らし合わせながら、道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止められるようにする。また、さらに考えを深め、自分自身と向き合うこと。

**・物事を多面的・多角的に考えること**

物事を一面的に捉えるのではなく、児童自らが道徳的価値の理解を基に考え、様々な視点から物事を理解し、主体的に学習に取り組むようにすること。また、他者の多様な考え方や感じ方に触れることで、身近な集団の中で自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己を深くみつめることができるようにすること。

本年度は、東信教育事務所学校教育課指導主事臼田瑞希先生をお招きし、「特別の教科　道徳」の評価のあり方について研究した。教育課程研究協議会は新型コロナの影響で中止となってしまったが、その分、委員同士での議論を深めることができた。

**四　研究の内容**

**１ 研究の視点および研究の方法**

研究の視点

（１）「児童生徒の成長を見取り、伝える」ための評価の在り方。

（２）「自分事として捉えているか」「多面的・多角的に考えているか」をどう評価するか。

（３）道徳教育を推進する立場として、評価について他職員にどのように伝えていくべきか。

研究の方法

（１）東信教育事務所臼田瑞希指導主事をお招きし、「特別の教科　道徳」の評価について研修を深めた。

（２）道徳の評価について文例を持ち寄り、委員同士での議論を行った。

（３）道徳授業研究会（和小）に参加し、授業参観をした。

（４）研究の成果として実践内容を「研究のまとめ」（Web ページ）に掲載する。

本年度の委員会の日程及び内容

（１）第１回　　８月２７日（木）推進計画と役割分担（会館）

（２）第２回　　９月　９日（水）道徳授業研究会に参加（和小学校）

（３）第３回　１０月２２日（木）東信教育事務所臼田瑞希指導主事によるご指導（会館）

（４）第４回　１１月１２日（木）「特別の教科　道徳」の評価に関する具体的な情報交換

**２　指導委員による研究・実践**

（１）東信教育事務所臼田瑞希指導主事によるご指導についてのまとめ（菅平小学校　北村　信）

○「成長を見取ることができる授業」を展開するために

　　１　児童生徒の実態を把握していることが大切。ここでいう実態とは、「この時間に考えたい道徳的価値」についての実態である。（このクラスは明るく活発で…などではない）

　　２　道徳的価値についての、授業者の理解が大切。その価値について、授業者がどう考えているのかがはっきりしていれば、授業がブレることはない。

　　３　１、２を踏まえて、適切な資料を活用する。

○「評価＝通知表・要録」ではない

　　「評価」という言葉自体に力があるために、「評価＝通知表・要録」と捉えられがちだが、そもそも評価は子どもたちに返っていくものである。だからこそ、道徳における評価は通知表のみならず、ワークシートへのコメントや、授業内での言葉掛けなど多様である。よって、通知表に記載する評価についても、教師側が正解を探すのではなく、その子にどう返っていくのかを考えることが大切。

　○道徳の評価の２視点について、見取るための手立て

　　　１＜多面的・多角的に考えているか＞について

　　　　・「友達の意見を聞いて…」という発言や記載を大切にする。違った考えを知ることや、自分の意見と比較し受け入れているかという部分の評価につながる。（必ずしも変化していなければならないわけではないため、そこは注意する。）

　　　２＜自分との関わりの中で考えているか＞について

　　　　・「自分だったらどうする」という問いかけも方法の１つ。長所は、ストレートに聞かれている分、表現せざるを得ないという点。短所は、「こうした方がいい」という本来の自分とは違う答え方をする可能性があるという点。

　　　　・「～になったつもりで」と、無理やりに聞き出すのではなく、児童生徒が主人公の気持ちに共感している場面を見つけ出してあげる。共感しているときが、自然と自分自身の経験などから考えているとき。

　○評価するためには、どう授業をするのかが大切

　　　道徳の評価は「自分とのかかわりで捉えているか」「多面的・多角的に考えているか」の２つの視点で行う。それを行うための児童生徒の見取りには次の３つがある。

　　　１　授業中の発言から見取る

　　　２　書いたもの（ワークシートなど）から見取る

　　　３　考えている姿から見取る

　　これらを行うためには、授業における明確なねらいと、授業者側の道徳的価値についての理解が不可欠である。つまり、しっかりとした授業を行うことが、道徳の評価につながる。

　○話したり、書いたりすることが苦手な児童生徒の評価

　　　活発に意見を言えたり、ワークシートなどに自分の考えをしっかり書けたりする児童生徒の評価はやりやすい。それができない児童生徒の場合には、次のように工夫して評価することが必要である。

　　（例）・授業中に直接声をかけ、考えの変容などを把握する。

　　　　　・授業後などに、学習した資料について話題にし、そこでの会話から評価する。

　○道徳を推進していく立場として大切なこと（特に評価について）

上記内容をしっかりと伝えていくとともに、質問に対しては「先生はどうお考えですか？」と返すなど、一緒に考えていくスタンスでいることが大切。

　　（２）和小学校の道徳実践のまとめ（和小学校　中村　哲）

　　　　道徳授業作り構想シート（和小学校）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 日　　時 | ９月９日（水）　３時間目 | 場　所 | 視聴覚室 |
| 授業学級 | ５年竹組　男子１９名女子１３名　計３２名 | 授業者 | 原　佑輔 |

**本時扱う主題**主題　A-（２）　誠実に、明るい心で生活する

**授業者の考える「正直・誠実」とは**

誠実に行動することは自分自身が後悔をせず、毎日楽しく過ごしていくために大切なものだと考える。嘘をつくことで一時的には難を逃れることはできると思うが、他人に責められたり、事態がより悪化するのではないかと不安が増したり、自信が無くなったりする。だから誠実に生きることは明るい気持ちで生活することにつながると思う。また嘘をつく原因として、「ばれなければいいや。」「誰も見ていないしいいや。」といった、隠して見つからなければ責められないという気持ちがあると思う。（私の中にも）自分自身も含め、その気持ちに打ち勝つ判断ができ、明るい気持ちで生活できるようにしたいと思う。

**授業前までの子どもの実態**

素直で明るく、目標を持って取り組むことのできる子どもたちである。過ちも素直に認め、謝ったり、反省したりできる子が多い。一方で、掃除、宿題といった場面では、ばれなければ嘘で隠してしまおうという姿も見られる。嘘が自分の後悔につながり、自分自身を偽ることに気づいてほしい。また正直であることの快適さを感じてほしい。

**授業者の自己課題**

・子どもたちの思いや考えをできるだけすくいあげ、子どもたちの言葉でまとめたい。

・子どもたちの心が揺さぶられたり、道徳的価値に深く迫っていったりするための発問や問い返し、補助発問。（うまくできない・・・）

**教師自身の資料の捉えは？（資料の価値）**資料名　「お月さまが見ている」（わたしたちの道５）

　この資料は、おなかをすかせた子どものためにスイカをとろうか迷っているおさよが、「誰も見ていないよ。でも、お月様が見ているよ。」という息子・三太の言葉にはっとし、スイカを盗むことを思いとどまるという内容のお話である。いけないと分かっていても、迷ってしまったことのある子どもたちにとって心情を重ねやすい教材であると思われる。

　また、「今日もおなかいっぱい食べさせてやることができない。」「このスイカがあれば、食べさせてやることができる。」「心臓がドキドキするのが分かった。」といったおさよの表現から、だめだと分かっていてもとりたくなるおさよの葛藤に気づきやすい教材であると思われる。誰にでもある自分の弱さ（悪魔のささやき）に打ち勝ち、誠実に行動することの大切さに気づくことのできる資料である。

　この資料を取り扱う理由は、教科書（新しい道徳５）の同じ主題である「見えた答案」を学習した際、行為の善し悪しについて捉えることはできたが、誰しもが迷うという弱さを持っていることや、誠実に行動することの大切さについて考えることが不十分であったと感じたため、再度本資料で同じ主題について考える。

**本時のねらいは？**

おなかをすかせた子どものためにスイカをとろうか迷っている場面で、「お月様が見ているよ。」という三太の言葉にはっとしたおさよの気持ちを考えることを通して、誠実に行動し、明るい心で生活することの大切さを考えることができる。

**ねらいに迫る中心発問は？**

・「お月様が見ているよ・・・・。」という三太の言葉を聞いたとき、おさよはどんな気持ちになったの

かな。（中心発問）

・とるのをやめたおさよは、今どんな気持ちかな？（補助発問）

本時の展開は？

|  |  |
| --- | --- |
|  | 学習活動　　教師の発問　・予想される児童の反応 |
| 導入  展開  終末 | １　誰も見ていないからいいやという場面について振り返る。（５分）  誰も見ていないからちょっとくらいいかなって気持ちは誰にでもあると思うんだけどみんなはどう？  　・うーん。　・あるかなぁ。　・あるある。　　　※具体例が出れば取り上げる。  後になって考えてみると、どんな気持ちになるかな？  　・本当によかったのかなぁ　　・後悔する　・ばれたらどうしよう。  　⇒そういう気持ちを持たずに生きられるといいよね。  ２　資料を読み、話の内容を確かめる。（７分）  　おさよの状況（３人の子どもを１人で育てている・まずしい・おなかいっぱい食べさせてあげられない・１日中売り歩いて疲れている）を子どもと確認する。  （　もしみんながおさよのような状況だったらどんな気持ち？　）  　・つらい　・おなかいっぱい食べさせてあげたい　・ごめんね  ３　スイカを取ろうとしているときのおさよの気持ちを考える。（１３分）  なぜおさよの心臓はどきどきしたのかな？  ○とってはいけない。  ・人のものをとってはだめだ。  ・いつか後悔する。  ・盗んだスイカなんて喜んでもらえない。  ○とりたい。  ・子どもたちが待っている。  ・腹一杯食べさせてあげたい。  ・１つくらいいいじゃないか。  ・誰も見ていないんだし、大丈夫だ。  　　　　　　　　　　　　　　　　　　どうしよう。迷うなぁ。  ⇒迷いが誰にでもあることを確認する。  ４　「お月様が見ているよ」という言葉にはっとしたときのおさよの気持ちを考える。（１５分）  「お月様が見ているよ・・・・。」という三太の言葉を聞いたとき、おさよはどんな気持ちになったの  かな。（中心発問）  ・やっぱりとるのはだめだ。　　・絶対後悔する。とるのはやめよう。  ・なんてばかなことを考えたのだろう。自分が恥ずかしい。　・お月様も見ているからやめよう。  　・自分が情けない。　　　・すいかの持ち主を悲しませてしまう。  とるのをやめたおさよは、今どんな気持ちかな？（補助発問）  　・とらなくてよかった。　　・違う方法で食べさせてあげればいい。  ・とったスイカを食べさせても子どもたちだって喜ばない。  　⇒とるのをやめたおさよのよさを確認する。  ５　振り返りをする。（５分） |

＜討議の柱＞

①家族のためにスイカをとるか、とるまいか、おさよの心の葛藤が描かれた本資料を取り上げたことは、子どもたちが心情を重ね、素直な思いを表出する上で有効だったか。

②「お月様が見ているよ・・・」の言葉ではっとしたおさよの気持ちや、スイカをとるのを思いとどまったおさよの気持ちを考えたことは、誠実に行動し、明るい心で生活することの大切さを考えることにつながったか。

授業を終えて・・・

５年竹組担任　原　佑輔

１　授業者のふり返り

　・嘘をついたことがある子どもに対して、「どんな嘘をついたか？」と問うと、行為の反省を促し、「今後はしないようにしよう。」という方向に向かうことを予想させ、先生の期待する考えを忖度させると主事の先生から教わった。そこで、嘘をつきたくなるのは誰にでもあることを前提として伝え、嘘をついてしまった時の気持ちを問う発問をした。子どもたちからは、「言わなきゃよかった。」「もやもやする」（※板書①）といった後悔の思いを感じていることが分かり、「今日はそんな思いを持たないために大切なことを考えよう」と、本時のめあてを共有することができた。

　・「おなかいっぱい食べたことがない。」「１人で３人の子を育てている。」という経験のない子どもたちが、おさよの気持ちを考えることができるのか不安になった。そこで、給食をこのあとも食べられないとしたらどんな気持ちか尋ねたり、範読をする際におさよの気持ちが伝わる部分に気持ちを込めて読んだりした。参観された先生から「S１さんが、『子どものために』と母親目線でおさよの気持ちを考えられていたことと、それが資料のどこに感情を込めて読むのかで変わるのでは。」とお話をいただいた。

　・葛藤の場面では、とりたい、とってはいけないと思ったのはどうしてか聞けたので、葛藤の内容が子どもたちから多く出てきた。これは初めの発問でS２さんが「とりたい気持ちととってはいけない気持ちとで迷っている」と発言してくれたからだ。この意見に私は「きたー！」と思った。子どもの言葉にアンテナを立て、さらに「どうしてか？」と問い返すことができた。

　・補助発問でとることをやめられたおさよの気持ちを尋ねた。「みんなに笑顔を見せたい。だから自分も頑張りたい。」「とらなくてよかった。この気持ちを強く持ちたい。」など、その子なりの誠実に生きることの大切さが見えた。一方で「三太、ありがとう。ごめんね。」といった表現も多く見られた。前者の意見をさらに問い返して、誠実について考えられるとよかった。

　・展開後半で資料から離れ、自分事として誠実について考えたいと参観された先生や主事の先生から教えていただいた。そのためのどんな発問や問い返しをしたらよいのか、考えたい。

２　参観していただいた先生方より

　・様々な道徳的価値が混在している資料なので、その資料のどの部分を考えさせるのか考えることが大切。

　・心の葛藤について考えられていたからこそ、分かってはいるがついやってしまう自分にどのように向き合うか考える発問や問い返しを考えたい。

　・「嘘をつかないこと」＝「誠実」なのだろうか。自分自身への誠実さを追求するためにはどうしたよいか。

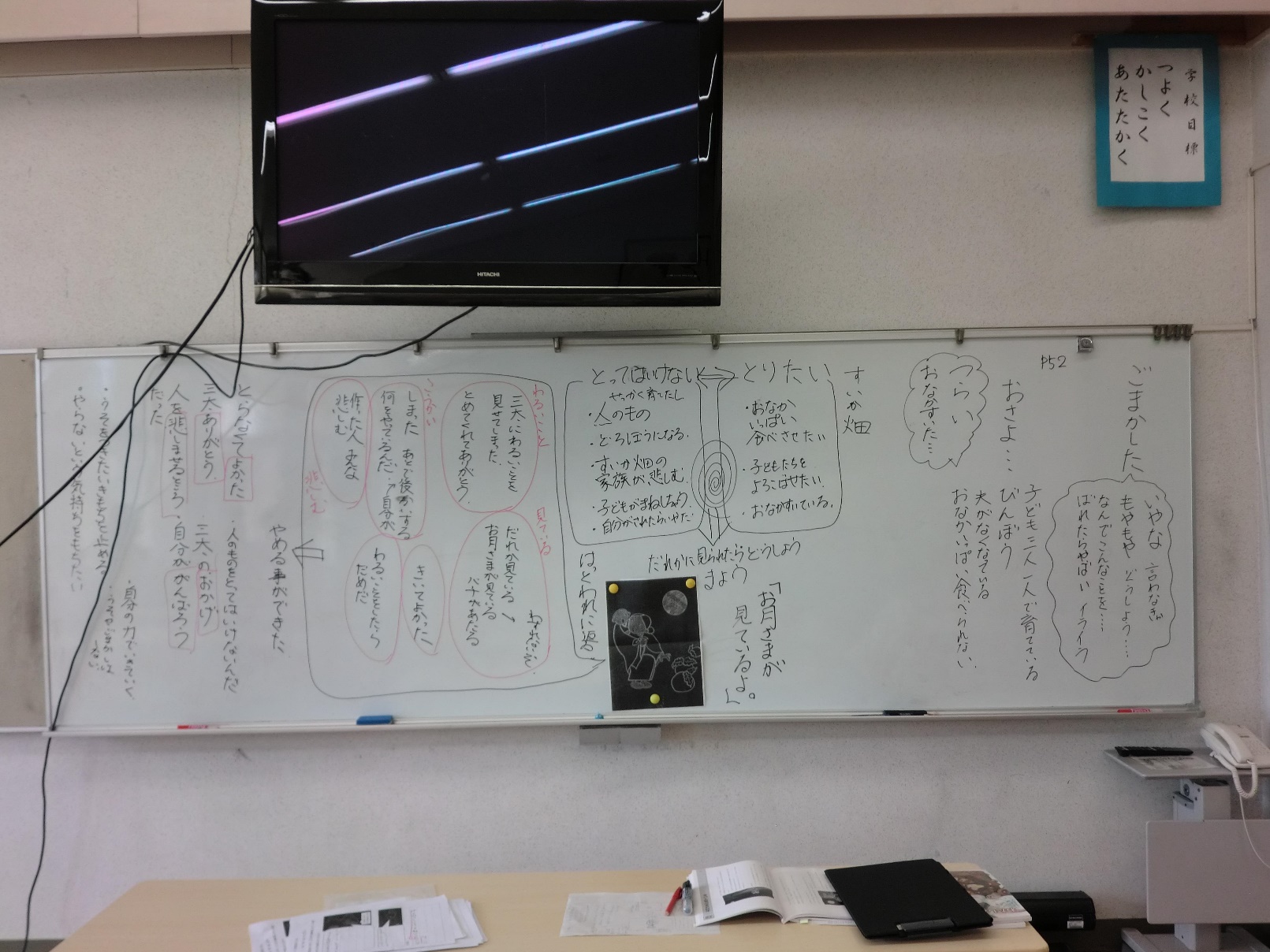
３　主事の先生より

　・発達段階を踏まえた道徳的価値を教師自身がどう捉えるのかがやはり大切。→教師自身も問い続ける。

　・この資料のどの部分で何を学べるかを考える。完璧な資料はない。

　・登場人物の気持ちから自分だったらと自分に寄せて考える場面を作りたい。その一手を考えたい。

　・教師の出（ゴールデンタイム）で子どもたちに即時評価をしたり、リアクションをつかんだりしよう。



　（３）東小学校　道徳実践「気持ちメーターの活用」（東小学校　山口　名香子）

　今年度、東小学校では道徳を中心に各教科の授業や活動の中で自己表出・自他の尊重・違いの受容などの視点から手立ての一つとして「気持ちメーター」を導入した。

◆**「気持ちメーター」の期待できること**

・発言に消極的な児童も、自分の考え（立場）を表出できる。

・自分と同じ（似ている）考えの友だちがいること、自分と違う考えの友だちがいることが、視覚的にとらえやすい。

・どの考えが正しく、どの考えが間違いというのではなく、どれも同じように大切であり、どこでもいいんだよと印象づけることができる。

・自分と同じ（似ている）考えの友だち同士で話したり意見を聞いたりすることで、曖昧だった自分の根拠を明確化させていくことができる。

・自分の立場を明らかにした上で、自分とは違う友だちの考えを聞くことができ、“自分とは違うけれど、そういう考えもあるな”と肯定的にとらえるきっかけとしたい。

・自分の考えが変容していくこと、友だちの考えが変容していくことがわかりやすい。そしてそれを受容する（｢変わっていいんだ」という）雰囲気を作っていく。

気持ちメーターを活用は、子どもたち自身が「いろいろな考えがある」ことに気づき、「友だちの考えを聞いてみたい」という思いにつながった。気持ちメーターは、対話的な活動かつ人権尊重につながる手立てとして有効であると感じた。

（４）道徳の評価（第一中学校　寺田　慶子）

　　ある程度の長い期間ずっとその人と関わって見てきて初めて、その人の心の変容や成長に気づいたりします。道徳はテストなどで理解できたかどうかをはかることもできないため、評価は本当に難しいと私たち職員は感じています。学習カードや授業での姿など長い期間の道徳の積み重ねからの見取りだけでなく、長い期間関わって見てきている日々の言動の見取りすべて合わせて、１人1人の心の変容や成長にこちらがしっかり気づいて評価できるように努力しています。

（５）実践例（南小学校　山崎　豪介）

１　主題名　力を合わせて　　内容項目　B－(9)友情，信頼　友達と仲良くし，助け合うこと

資料　自作「どうぶつがにげた！」

２　本時の主眼

　　「どうぶつがにげた！」のゲームで完成を目指す子どもたちが，話し合いながら動物のカードを置く活動を通して，自分の考えを伝えたり友だちの考えを聞いたりすることのよさに気付くことができる。

３　展開

（１）ゲーム①を行う。

（２）感想を発表し合い，本時のめあてを決める。

（３）ゲーム②を行う。

（４）学習カードの振り返りを記入する。

４　考察

（１）意図的なグルーピング

　　人間関係や特性に配慮したグループで活動をすることにより，多くの子が受け身にならず主体的に主張と傾聴ができ，助け合って仲良く活動する姿につながったと思われる。

（２）焦点を絞った選択式の学習カード

　　ゲームの勝ち負けだけに意識がいかないように，「じぶんのいいたいことはいえましたか。いえた・いえなかった」というように，本時にねらいに迫れるように選択式の学習カードを使用した。子どもたちにとってねらいからそれずに振り返りができる手助けとなったと思われる。

（３）子どもの思考・記述とその評価文例

　　①A児

　　ゲーム①後の感想

「おれの役目いつあるの。」

　　ゲーム②後の振り返り

　　「みんなと協力するとみんながうまくできるんだな。はじめは役目がなかったけど〇〇さんは役目をくれてうれしいな。」

　　評価文例

「ゲームを通して，自分の役割があって友だちが尊重してくれることのよさを感じることができた。」

　　②B児

　　ゲーム①後の感想

「カードを取られちゃった。」

　　ゲーム②後の振り返り

「じゅんばんこにやってくれてうれしかった。」

　　評価文例

「ゲームを通して，友だちと助け合いながら活動することの良さを感じることができた。」

（６）道徳学習指導研究委員会 レポート（東部中学校　加藤　昌治）

道徳科学習指導案

１ 主題名　　他者と共に生きる社会を目指して【内容項目Ｂ（９）相互理解、寛容】

２ 教材名　　「アイツとオレ」（中学道徳③　きみが いちばん ひかるとき：光村図書）

３ 主題設定の理由

　学級の生徒は、自分たちが楽しむことに夢中になってしまうために、時間のけじめがつけられずに遅くなってしまったり、仲間意識を強めて常に一緒に行動しないと不安になってしまったりする集団がある一方で、相手からどう見られているかが気になるあまり、少しの言動でも心配の種になり、「自分が周囲からどう見られているか」常に気にしながら生活をする生徒も見られる。

　本教材は、対照的な性格の2人の生徒の対話を親しみやすい漫画で読むことができ、他者と相互に理解し合うことの必要性を考えさせ、高め合おうとする判断力を育てることができる教材である。自分のことだけでなく、周囲のことも配慮しながら行動していくことは、社会生活の上で欠かせない大切なことである。自分が気づかないうちに他者の心に深い傷をつけてしまうことですらある。相手の良さを認め合い、さらに一歩踏み込んで間違いを批正することが出来る姿が見られるようになることを願い、本主題を設定した。

４ 本時の位置（1時間扱い）

５ 本時案

1. 主眼

　「アイツとオレ」を読んで、登場人物に共感し、自分にも似たような経験があることを感じた生徒が、自分が「オレ」だったらどんな行動を取るかを考え合う活動を通して、自分よりも優れているかもしれない存在を認めたくないという気持ちをもちがちであることに気づかせて、その上で互いの違いや、良い点を認め合ったり、互いの思いを伝え合ったりすることが大切であることを実感させ、他を慮る心と態度を育てる。

1. 展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動(時間) | 予想される生徒の反応 | 指導上の留意点（◆評価） |
| 導入 | ○自分はまわりの人から分かってもらえている」と思いますか。ネームマグネットを「心のものさし」に貼りましょう。（５） | ○同じ部活動の仲間は、励ましの声をくれたりするから、分かってもらえている。  △両親は、自分の夢を応援してくれている。でも、本当に理解してくれているかは分からない。  ●あまり話をしない人は、自分のことを理解してくれていないと思う。 | ・日常のいろいろな場面を振り返るようにし、思い起こさせる。  ・反応が鈍いときは、教師が自分の例を挙げる。  ・「心のものさし」に貼る際は、迷っている生徒にどちらでもないという選択があることを伝える。 |
| 展開 | 学びのテーマ：人と分かり合うことは、なぜ必要なのだろう  「アイツ」と「オレ」を読んで考える  ○「オレ」はどうして「アイツ」のことが気に入らないのでしょう。（15）  ○「アイツ」の言葉の後に、「アイツ」と「オレ」が話し合うとしたら、どんな会話になるでしょう。（５）  ○グループで「アイツ」役と「オレ」役になって、役割演技をしてみましょう。（５）  ○全体の前で1組、発表してください。（10）  ○「自分はまわりの人のことを分かっている」と思いますか。「心のものさし」にネームマグネットを貼りましょう。（５） | ・大人っぽい態度が嫌。  ・自分と同じくらいなのに、余裕のある態度が気に入らない。  ・正論を振りかざしている感じが気に入らない。  ・「おまえのそういう決めつけた話し方が気に入らないんだよ!!」  ・「おまえがおれと同じと思ってみるなんて、思ってもみなかった。もう一度自分の行動を考えてみるよ。」  ・考えてみると、分かっているつもりだったけど、分かっていなかったのかもしれない。  ・これまであまりそこまで深く考えていなかったな。分かっているつもりだったけれど。 | ・自由に発言させる。  ・「正論」という意見が出た場合は、具体的に「正論」とはどんなことか、切り返して問う。  ・発問に「言い返す」という言葉を使うと「オレ」の言葉が対抗する方向だけになりやすいので、ここでは発問を「話し合う」とする。  ・演じたときの気持ちや、役割演技を見て、どう思ったかを出し合い、グループで共有する。  ・自分たちとの違いをよく見るように指示する。  ・自分にとっての「アイツ」をイメージして考えるように伝える。  ・迷ったら、どちらとも言えないという選択があることを伝える。 |
| 終末 | ○感想を書きましょう（５） | ・良いところだけでなく、良くないところも伝えることが大事なんだと思いました。  ・分かり合うことは難しいけれど、お互いのことを知る上でとても大切なのだと思いました。 | ・役割演技を通して感じたことなど、授業の感想を書くように促す。  ◆良い点を認め合ったり互いの思いを伝え合ったりすることの大切さを感じ取ることができたか。 |

６ 参観していただきたい点

・「心のものさし」を使って、一人ひとりが自分の気持ちを示したことは、新たな道徳的価値を獲得し、さらに考えを深める上で有効であったか。

・「アイツ」にかける言葉を考えさせた上で役割演技をしたことは、自分の問題として道徳的価値をとらえる上で有効であったか。

**五　研究のまとめと課題**

　１　本年度の活動の内容と反省

（１）委員会の内容について

　　　　・委員会に、東信教育事務所の臼田瑞希指導主事をお招きし、「特別の教科 道徳」の評価について研修を行った。小・中ともに完全実施された「特別の教科　道徳」の評価について基本的な考え方を学べたことは、大変有意義であった。

（２）教育課程研究協議会の運営について

　　　・今年度は、新型コロナの影響により、教育課程研究協議会が中止となってしまったことは大変残念だった。しかし、授業予定校だった和小学校の授業研究会に参加させていただけたことで大変有意義な活動を行うことができた。

２　残された課題と来年度への要望

　・より良い評価のためには、どう授業をするのかが大切であることを本年度の研究の中で学んだ。しかし、その部分を深くは追究できていない。道徳の評価は「自分とのかかわりで捉えているか」「多面的・多角的に考えているか」の２つの視点で行うが、それを行うために「具体的にどのような授業を展開し、どう児童生徒を見取るか」など、授業と評価を関連付けた研究を進めていくのも良いのではないか。

・来年度は、教育課程研究協議会午後の部の運営を中心として計画を立てていきたい。

・年間行事の中での道徳の時間の確保や、教材教具の工夫、評価時期の検討など日ごろの指導の中で出てくる問題について考えていきたい。

・「道徳の評価をどうやったらいいかわからない」と困っている職員が多くいる。本委員会で学んだことを、いかにして多くの職員に知ってもらい、実践してもらうかということが今後の課題となる。

**六　令和２年度　道徳学習指導研究委員会　委員名簿**

推進係：甘利　尚之（塩尻小学校長）

委員長：北村　信（菅平小学校）

委員：中村　哲（和小学校） ・加藤昌治（東部中学校）・山﨑豪介（南小学校）

山口名香子（東小学校）・寺田慶子（第一中学校）